

財団法人 日本産業技能教習協会

平成21年度事業報告書

平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日

I. 事業概要

技能講習実施 種目別実績

	講習名	21年 実績 (人)	21年 計画件数 (人)	21年 達成率 (%)
1	フォークリフト運転技能講習	392人	480人	82%
2	車両系建設機械運転技能講習 (整地・運搬・積込及び掘削用)	63人	72人	88%
3	車両系建設機械運転技能講習 (解体用)	7人	10人	70%
4	玉掛技能講習	430人	460人	93%
5	小型移動式クレーン運転技能講習	176人	130人	135%
6	ショベルローダ運転技能講習	20人	20人	100%
7	ガス溶接技能講習	232人	270人	86%
8	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	884人	900人	98%
9	建築物等の鉄骨の組立て等作業主任者技能講習	147人	135人	109%
10	地山の掘削及び土止め支保工 作業主任者技能講習	207人	200人	104%
11	足場の組立て等作業主任者技能講習	541人	450人	120%
12	型枠支保工作業主任者技能講習	154人	110人	140%
13	有機溶剤作業主任者技能講習	96人	150人	64%
14	特定化学物質・四アルキル鉛等 作業主任者技能講習	31人	120人	26%
	合計	3380人	3507人	96%

本年度は、計画どおり、平成21年10月より労働衛生関係の作業主任者技能講習を、東京都内で開始できた。受講者数こそ計画件数には達しなかったが、実際の受講者による無記名アンケートによる回答では、総じて満足度が高く、講習開始時の準備が結果に結びついたと感じている。

全体的な状況では、景気低迷期の中でも受講者数の極端な落ち込みは無く、受講者総数、受講料収入は、ほぼ前年と同様となった。

しかし、本年度は当初予算に計上していなかった熊谷教習所設備の老朽化に伴う下水道工事、及び新規職員の雇用等の出費が重なり、支出が膨らみ、結果として多額の赤字となった。

平成6年から平成17年までおよそ10年以上続いた経営不振も影響し、引当資産の積立ても少なく、内部留保も10%に満たないような厳しい経営状況が続いている。

II. 重点活動

21年度事業計画を立てる際に重点活動とした項目について報告する。

組織体制の整備：

公認会計士事務所を通じての総合コンサルタントを計画していたが、諸事情により、計画通りの推進が出来なかった。引き続きの整備を要する。

講習事業の内容充実：

事業計画どおり、フォークリフトコースの張替え、ショベルローダーの購入を実施した。修了試験の改定については、講師連絡会議において伝達し、受講者が多く、開催頻度の高い講習から事務局、講師と協力して随時での更新を進めている。

公益法人制度改正への対応：

組織体制の整備と同じく、外部コンサルタントとの交渉は、計画どおりの進捗ができなかった。20年度から引き続いての作業としては、セミナー等を通じ情報収集に努めた。法施行から1年以上が経過し、おおむねの情報は揃ってきたように感じている。

III. 庶務事項、その他

21年度の事業運営における庶務事項、その他について報告する。

新職員の雇用：平成21年度4月より、総務部に常勤職員を1名雇用した。

勤務場所は、神田本部

主な担当業務は、労働衛生に関する講習全般の統括、本部内で実施する講習の進行管理の他、人事、労務全般の管理である。